

『ザッケローニ監督と故藤田元司監督とガチャピン』の関係



みなさん、サッカーアジアカップ見ました？興奮しましたね～！！

最高でした！！そしてイタリア人ザッケローニ監督の采配、見事でしたね！！

自分はどうしてもザッケローニさんが元巨人軍の監督だった藤田元司さんのイメージに重なってしまいます。

熱血というよりも紳士的なイメージ、人当たりのいいおじさんのなのになぜか勝手に組織がイキイキしていてめちゃくちゃ勝負強い。藤田さんが監督をやっていた時のほうが、

長嶋さんや王さんが監督をやっていた時より圧倒的に

巨人軍は強かったというイメージをタイガースファンの自分は持っています。

同じようにザッケローニさんも紳士的な多少ちょいワル的なイタリア人特有の雰囲気を持っていて、選手がなぜかイキイキしている感じがします。



ジーコさんの時のようなレギュラーがほぼ完全固定されてしまっているあきらめ感が控え選手にないですし、オシムさんの時のように選手がボールを持ってからどこにパスするのが1番正しいのか必死で考えながらプレーしているような迷いもないですし、岡田さんの時のように監督の心配事や苦悩が選手がピッチでそのまま共有してしまっているようなオドオド感もなく、勝利の重圧はカラットしたイタリア人氣質の監督に預けてしまい、自分たちはどんな逆境の中でも何かが起こせる集団なんだと何となく根拠もなく確信に近く感じながらプレーしているような気がしました。



『集中と緩和』、『手放し感と根拠のない確信』、

藤田さんもザッケローニさんも、選手の脳を最高に機能する状態にできる天性の才能があるのではないかと感じました。

我々の現場における安全管理も『集中と緩和』は、とても重要なキーワードとなります。

1番安全な状態とは作業者がリラックスして周りがよく見えている状態なのですが、どうしても仕事のボリュームが多い時や時間が限られているときは、その状態が崩れてしまいがちです。そんな時にでも沖繩の人たちのように『なんくるないさ～』とリラックスして脳から**アルファ波**が出ていれば最高です。

しかしながらこの**アルファ波**も万能ではなく、

長時間は持続できない脳波らしく、どうしてもミスが発生してしまう。

したがって要所要所に**ベータ波**を発生させて脳をアゲアゲの状態にしておく。

これがいわゆる指差呼称というもので、対象に向かって人差し指をさして

『～ヨシ！！』と唱えるだけであら不思議！ミスが6分の1に減少するという魔法の儀式です。



したがって作業責任者の理想は、自然な自分らしい指揮をしているのに、なぜか作業者がリラックスしてイキイキしていて、どんなトラブルやハマリにも『何とかなるだろう』と根拠のない確信を持って前向きに取り組んでいる状態をつくりだせること。

そして作業者の理想はガチャガチャやりながらも要所要所をピン！とさせること。ガチャピンが理想だということ。

ということで、サッカー日本代表ザッケローニ監督から藤田元司元巨人軍監督、工事現場における指差呼称の励行例などをわざわざ引き合いに出しながらテクア新年会を全肯定してみました(笑)！

人間万歳！ 羽原篤史



P.S.宴会終了5分後には、すべての衣装とゴミが片付けられ、お膳の上以外には何も無い状態にして2次会場に向かいました。今年も仲居さんに絶賛していただきました。

もう日本一宴会場の仲居さんにモテる会社にはなりましたので、次はドラッカーの理論とザッケローニの感性をみんなで共有して日本一の機械メンテナンス会社を目指します！！

感謝！

